

慈恵病院が担う役割について

平成 31 年 3 月 5 日
医療法人 聖粒会 慈恵病院
理事長 蓮田 太二

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

周産期医療を中心とする一般病床98床の病院で、診療科は、外科、内科、産婦人科、小児科、麻酔科を有しています。

1. 病院の理念

- ・キリストの愛と献身の精神を信条とします。
- ・高度で暖かい医療と看護を提供します。
- ・患者さんの満足と幸せのために尽くします。

2. 基本方針

- ・患者さんの権利を尊重し、十分な説明と同意に基づいた医療を提供します。
- ・患者さんの安全確保と院内感染防止を徹底します。
- ・適切で、優しい看護を提供します。
- ・笑顔と心くばりをもって接遇し、清潔で快適な院内環境を保持します。
- ・健全経営を継続し、働きがいのある職場づくりに努めます。

1 現状と課題（2）

急性期一般入院基本料6

平均在院日数 8日

職員数

医師 13名、助産師 31名、看護師 71名

その他専門職 57名 事務職員 46名 総数 218名

熊本県は、第5次保険医療計画で緊急な対応が必要とされる母体の緊急疾患や他科合併症を有する妊婦に対して地域の産科医療機関で迅速に対応するため、地域の中核的な産科医療機関を「地域産科中核病院」として位置づけています。当院は、平成25年4月に地域周産期中核病院の指定を受けて、地域の周産期医療の中核的な役割を担って参りました。

医療連携につきましては、地域の産科医療施設や総合周産期母子医療センターの熊本市民病院や熊本大学附属病院、地域周産期母子医療センターの熊本赤十字病院や福田病院と連携しています。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

地域周産期中核病院として、地域において妊婦に対する産科医療や母子安全への取り組みを強化しています。地域の産科医療施設や助産所等から母体救急疾患や他科合併症を有する妊婦等、迅速な救急対応が必要とされる妊婦を受入れ産科医療を行ってまいりました。

一方、総合周産期医療センターである熊本市民病院、熊本大学医学部附属病院や地域周産期母子医療センターである熊本赤十字病院や福田病院と連携し、搬送等により母子の安全確保を図っています。以上の医療行為を行うことが地域の中核病院としての役割であると考えております。また、今後当院に求められてる役割であるし、着実に重責を果たしていかなければならないと考えております。

医療従事者の確保につきましては、現在充足していますが、産婦人科医師、助産師、看護師の募集から採用までの時間軸が長くなっており、採用面における課題となっています。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

単位：床

病床機能	2018年(平成30年)	2025年
高度急性期		
急性期	98	98
回復期		
慢性期		
その他		
合 計	98	98

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

当院は明治31年、マリアの宣教者フランシスコ修道会慈善施設開設を母体とし、以来、地域医療の一翼を担ってきました。また、何よりも命を大切にし、寄り添う看護を実践し、母子医療の充実に力を注いできました。内科、小児科は地域の患者さんを受け入れています。産婦人科は二次救急病院として、県下一円を医療圏としています。

当院が設立以来、取り組んできました医療を通して地域に貢献すること、又質的改善を継続し、安全確保に向けた取り組みの強化を図ることが今後提供する医療機能であり役割だと確信しております。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その3 】

2018年（基準日）の病床機能
急性期・・・98床

2025年（基準日後）の病床機能
急性期・・・98床

当院が今後提供します医療機能につきましては、地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関連施設等と適切に連携していき対応することが求められていると確信しています。従いまして2025年においても現状の医療機能を維持、提供していくことが、当院の役割であると考えております。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 診療科の見直し 】

	現時点 (2018年11月時点)	2025年	理由・方策
維持	産科、婦人科、小児科、 外科、内科、麻酔科	現在の診療科を維持	
新設			
廃止			
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2018年11月時点)	2025年
病床稼働率	62.2%	70.0%
紹介率	7.6%	10.0%
逆紹介率	11.2%	13.0%

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

取組み

- ・地域の周産期医療施設と連携し、妊婦に対する産科医療等の母子医療の充実を図ってまいります。地域の中核的役割を果たし、地域医療に貢献していくことが大切であると考えております。

課題

- ・少子高齢化の進展により我国は、本格的な人口減少過程に突入しました。未婚化・非婚化により生涯未婚率は男性、女性とも上昇しています。また晩婚化、晩産化についても進行しており出生したときの母親の平均年齢も上昇傾向が続いています。出生率においても2017年の厚生労働省統計では合計特殊出生率は1.43と2年連続で低下いたしました。出生数は94万6060人となり過去最少を更新しました。出生数の減少は我国の課題であります。周産期医療を中心とする当院にとりましても、喫緊の課題であると考えております。

4 その他特記事項

【妊娠・出産・育児などの相談体制の充実】

当院のホームページに様々な悩みを抱えている人の相談窓口を設けております。

又、「こうのとりのゆりかご」を開設して11年になります。平成29年度の全国からの相談は7444件となり、24時間体制で様々な相談に対し、真摯に誠実に対応しています。今後も、悩みを抱えているお母さん方々へ寄り添っていきたいと考えております。